

* 竹田市感染症情報(竹田市独自集計) *

令和8年第27週 (6月29日～7月5日)



ヘルパンギーナは減少しました

今週は4名の報告となり、先週の13名から減少しています。大分県全体も定点あたり2.00名となり、先週から減少しました。

手足口病は減少傾向ですが、県内では流行発生警報レベルが続いています

今週の報告は4名と、2週続けて減少傾向となりました。大分県全体でも定点あたり7.69名となり、先週の10.94人から減少しています。石けんと流水で手を洗い、タオルを共用しないように気をつけましょう。

県内で新型コロナウイルス感染症が流行しています

今週は1名の報告がありました。大分県全体では定点あたり7.26人と、3週続けて増加しています。定期的に部屋の換気を行い、咳エチケットなど基本の感染対策を行いましょう。



夏休みに海外旅行を予定している方へ

海外では、日本国内にはない感染症が流行している地域や、日本にいるときよりも感染リスクが高い病気があります。予防接種によって、罹患や重症化のリスクを下げるができますので、旅行の予定がある方は情報収集したうえで検討ください。予防接種の種類によっては、間隔をあけて数回接種が必要なものもありますので、できるだけ早めに余裕をもって医療機関にご相談ください。

*海外渡航のためのワクチン：https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/useful_vaccination.html

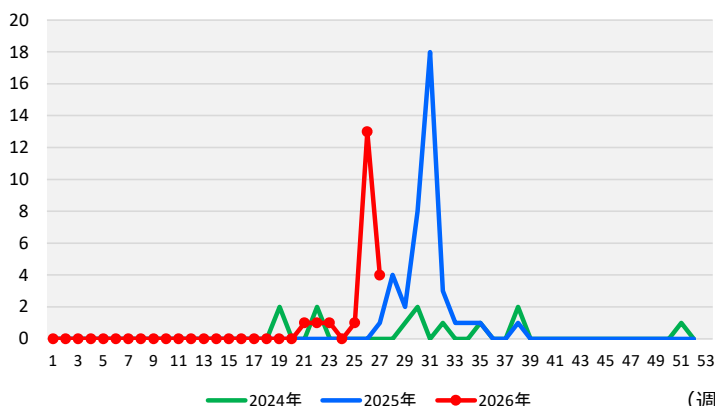


(第27週)

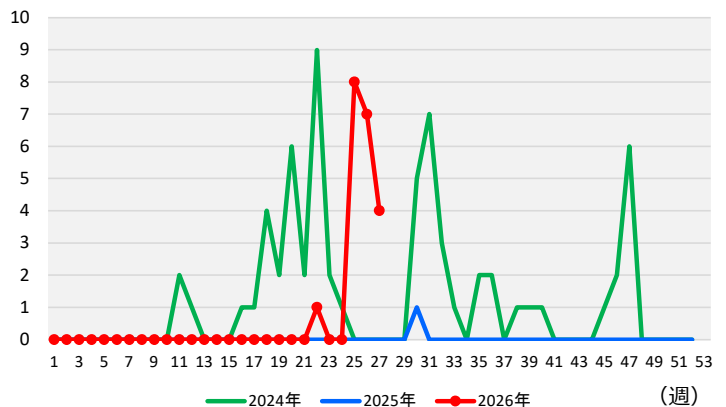
(調査医療機関8か所の総患者数)

疾患名 年齢	インフルエンザ			新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱(プール熱)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘(みずぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑(リンゴ病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	マイコプラズマ肺炎	麻しん(全数報告)	風しん(全数報告)	百日咳(全数報告)	つつが虫病(全数報告)
	A型	B型	不明																
0歳										1									
1～3歳										3		1	2						
4～6歳													2						
7～9歳																			
10～14歳																			
15～19歳																			
20歳以上				1				4											
今週				1				4		4		1	4						
70歳以上(再掲)																			
先週				1				5		7			13						

(人) ヘルパンギーナ竹田市8医療機関総数



(人) 手足口病竹田市8医療機関総数



感染対策基本のキ

- 1 流水と石けんでの手洗い
- 2 よく触れる物のアルコール消毒
- 3 可能な範囲でのマスク着用

からだに不調を感じたら

医療機関に相談しよう

感染症の初期は発熱や咳などで発症しますが、猛暑で体力や免疫力が低下すると、感染リスクも高まります。「変だな？」と思ったら、医療機関に相談してください。

感染症についての情報はこちら



4 ヘルパンギーナ

(特徴) 発熱と喉の痛みが主な症状の夏かぜの一種です。合併症として、熱性けいれん、特に乳児では脱水症、まれですが小児では髄膜炎や心筋炎などに注意が必要です。発症後4週間後頃までは、便からウイルスが排泄されるため、おむつ交換の後はしっかり手洗いしてください。

(感染経路) 感染経路は、便からの感染を含む接触感染と飛沫感染です。



5 手足口病

(特徴) 口の中や、手足などに水疱性の発しんが出る感染症です。こどもを中心に感染し、多くが数日間のうちに改善しますが、まれに重症化することがあり注意が必要です。

(感染経路) 飛沫感染、接触感染、糞口感染(便の中に排泄されたウイルスが口に入って感染)が知られています。

INDOOR

2 新型コロナウイルス感染症

(特徴) 令和5年5月に感染症法上の「5類感染症」に移行されましたが、リスクの高い感染症に変わりはありません。引き続き基本的な感染対策を心がけ、自分や周囲への感染を防ぎましょう。

(感染経路) 患者から排出されるウイルスを含む飛沫、さらに小さな水分を含んだ粒子(エアロゾル)の吸入、感染者の目や鼻、口に直接触れることにより感染します。



3 咽頭結膜熱

(特徴) アデノウイルスの感染により、発熱、のどの痛み、結膜炎といった症状が数日続く、こどもに多く見られる感染症です。感染者が使ったタオルなどにウイルスを含んだ目やに、唾液、鼻水が付着していることもあるので、タオルの共用は避けましょう。

(感染経路) 主な感染経路は飛沫感染、接触感染です。

1 RSウイルス感染症

(特徴) RSウイルスによる呼吸器感染症です。生後6か月以内の乳児、基礎疾患のある小児や高齢者がかかると重症化する可能性があるため、注意しましょう。

(感染経路) 主に接触感染、飛沫感染によって感染します。

2 新型コロナウイルス感染症



1 RSウイルス感染症



© iStockphoto.com

健康生活部 感染症対策課 医師 榎本 真一
「夏かぜは、夏かぜといわれる「手足口病」「ヘルパンギーナ」「咽頭結膜熱」などの感染対策も気になるところです。夏かぜは、こどもがかかる



時間史明

もの一と思われがちですが、夏かぜの原因となるウイルスの型には多くの種類があり、1シーズンに何回もかかる大人も少なくありません。また、近年夏期に増加傾向がみられている「RSウイルス感染症」や「新型コロナウイルス感染症」もまだまだ注意が必要です。いずれの感染症も手洗いや咳エチケット、換気などの基本的な感染対策が重要です。発熱やせきに加えて、呼吸が苦しい、食事や水分が摂取できないといった症状が現れたら、すぐに医療機関に相談しましょう。